

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「日用心法」～

日用心法とは・・・「日常生活を送るうえで、どういう心の工夫、生活習慣を心掛けているか」ということです。そのありようが人生の質・充実度を決める要になるという意味で、どういう日用心法を持つかは大事なことです。良い人生を生きた人は良い日用心法を実践した人だ、とも言えます。では、どうぞ

阪急グループを創り上げた小林一三氏にまつわるこんな話がある。

地方の温泉に行ったとき、偶然古い友人にあった。その友人は事業で成功して、巨万の富を作った人だった。久しぶりなので後でゆっくり話そうと、その友人が泊っている旅館を訪ねて驚いた。

通された部屋はみすばらしい一間で、そこに奥さんと二人で座っている。

小林氏が、

「あなたのような金持ちがどうしてこんな部屋に泊まっているのか？」

と訊ねた。友人は・・・

「自分たちは無我夢中で働いているうちに運勢に恵まれて何一つ不自由のない生活になったが、考えてみると、あまりに恵まれすぎて、何だか恐ろしいみたいで、何か厄払いをしなければと思い、毎年ここにきて、一か月、この部屋に泊まって厄を払っているのだ。」

その部屋は、夫婦がまだ成功する前に何度か泊ったことのある部屋だったという。

小林氏はこの話に深く感動した。成功しても驕らず、自分の原点を内省する。この人はこの人なりの日用心法の実践者であったといえる。

では、人生に鮮やかな足跡を残した人たちはどんな日用心法をもっていたのだろうか。

その残した言葉に学んでみたい。

○人のお世話にならぬよう 人のお世話をするよう そして報いを求めぬよう （後藤新平）

○済んだことにくよくよせぬこと 減多なことに腹を立てぬこと いつも現在を楽しむこと
とりわけ人を憎まぬこと 未来を神にまかせること （ゲーテ）

○いかなる時も 自分は思う もう一步 今が一番大事な時だ もう一步 （武者小路実篤）

○一、心中常に喜神を含む（心の奥に喜びを持つ）

二、心中常に感謝の念を含む（感謝報恩の気持ちを持つ）

三、常に陰徳を志す（人知れぬ善い行いをする） （安岡正篤）

○一歩一歩上がれば何でもないぞ。一歩一歩努力すれば、いつのまにか高いところでも上がっている
（鈴木大拙）

「致知」8月号（致知出版社） 特集より

よくこの通心（信）で紹介している松下幸之助さんの言葉も紹介しますね。

○うまくいくのもいかないのも、それはすべて自分に責任があると考えた方がいい。

外に原因を求めている間は・・・決してうまくいかない。

○どんなに悔いても過去は変わらない。どれほど心配したところで未来もどうなるものでもない・・・

いま、現在に最善を尽くすことである。」

さあ、2学期が始まります。あなたは、どんな具体的な「日用心法」を心がけますか？

